

〔奨励賞〕 にんにく茎切りカッター太助くん



代表取締役社長
木原 康博氏

株式会社 木原製作所

〒754-1102 山口県山口市秋穂西3106-1

TEL. 083 (984) 2211

<http://www.kiharaworks.com/>

重労働だったにんにくの茎切り作業を自動化した装置。1時間あたりの処理能力は1920個と手作業に比べて生産性は約4倍高まった。家族でにんにくを栽培する農家での利用を想定し、販売価格を1台25万円と低く抑えた。主産地・青森県での好評が功を奏し、インターネットを通じた注文は全国に広がり、販売台数は1年目が50台、2年目が70台、3年目となる2012年は100台を見込む。

にんにく茎切り装置「にんにく茎切りカッター太助くん」は、直径約80センチメートル弱の円形でにんにくを載せるカップが4つある。にんにくをカップに載せるのは手作業だが、その後のにんにくの固定、切断、排出はすべて自動で行う。テーブルが1回転すると茎を切断したにんにくが排出される仕組みだ。販売価格を抑制するため、テーブルの回転とにんにくを固定するための駆動源は、1台のモーターで行える仕組みとなっている。カッターの替え刃は1枚2000円程度のコンバイン用で、ランニングコストの軽減も図っている。また安全性に配慮し、カッター部は外部から触れられない構造とした。

滋養強壮や料理の香り付けなど古くから日本でも親しまれてきたにんにく。茎切りは枝切りばさみを使って1個1個手作業で行なってきた。1時間あたりの処理量は個人差があるものの約500個という。国内生産量の7割以上を生産する青森県では作業のピーク時期にはパートを採用する農家が多い。導入した農家からは「パートを採用しなくてよくなり、人件費が削減できた」と好評を得ている。

